

令和 6 年度

一般会計決算討論

賛成多数で可決

賛成

選ばれるまち、人がつながるまちへ

青藍会 板倉篤 議員

消費活性化クーポン給付や給食費高騰分の公費による補助、物価高騰対策給付金などによって物価高騰に苦しむ家計支援が行われたことや、教育・文化施設の整備・更新が進んだことは市民の健康で文化的な生活の向上が図られたものと評価できるもので、転入による生産年齢人口増加などで納税義務者数が1千人以上増加したことも本市が選ばれるまちであることを表している。

また、オールふじみ野スポーツフェスティバルや伝統文化芸能保存継承など、コロナ禍により希薄化した地域の絆を行政が積極支援していく姿勢が示されたことも評価する。

賛成

弾力ある財政で未来への事業運営に期待

公明党 鈴木美恵 議員

自主財源の根幹となる市税では収入未済額は前年度と比較して、約2700万円減少している。収入未済の縮減、新規滞納発生防止対策及び徴収対策を進めてきたことで、自主財源の安定的確保がなされていることを評価する。また、財政指標を見ると、経常収支比率が上昇傾向であることを確認した。

これまでに文化施設整備事業が進み、ステラ・イーストホール棟もオープンとなり、おおむね文化施設の整備が整ったことで、今後は未来へ向けた子育て世代への支援、防犯防災への取り組み、高齢福祉の充実に向けたさらなる施策が実行されるものと期待する。

反対

物価高騰に対する支援が不十分

日本共産党 塚越洋一 議員

実質収支が約24億円の黒字、各種基金の残高が約148億円もあり、将来に向けても税収の順調な伸びが確実に見込まれる。

物価高騰に苦しむ市民生活を支援するための市独自の財源を投入しての事業は、国からの交付金の範囲での給付金事業などにとどまっている。学校給食費無償化や補聴器購入補助制度など、政策効果が期待できる市民の強い要求に十分に答えられていない。

財源がなくてやらないのではなく、財源があるのに積極的な政策展開がされていない。市民の暮らしを守る切実な願いに寄り添ったあったかな市政の決算にほど遠い。

賛成

健全財政で公共工事も円滑に執行

会派外の議員 民部佳代 議員

将来負担比率マイナスを維持、プライマリーバランスは黒字に転換し、持続可能な財政運営が行われた。

歳出面では、物価高騰分約8千万円を公費負担し給食費を据え置いた。防災情報システム導入や部活動地域連携支援、創業支援などの重要施策を適切に執行した。デジタル採点ソフト導入は教職員の負担軽減に貢献した。今後もICT活用を推進してほしい。

公共工事の入札不調が増える中、中学校大規模改造、体育館の空調整備、上福岡図書館やステラ・イーストホール棟の整備など、市民サービスを停滞させることなく円滑に工事が行われたことを評価する。